

法人（事業所） 理念	人と自然、命と命が支え合う暮らしのなかで、「自分はここにいていい」と思える関係性を育む。馬との暮らしを軸とし、障がいや困難を抱える子どもたち一人ひとりが、役割をもち、他者とつながりながら、その子らしく育っていくことを支援します。評価や競争から離れ、子どもの感覚や主体性を大切に、未来を生き抜くための「根っこ」の力を耕していきます。		
支援方針	思春期を迎える子どもたちが、馬や自然の中で「自分のままで大丈夫」と感じ、自分の価値を見出していけるよう支援します。暮らしや役割を通して自己肯定感や主体性を育みながら、学校生活や将来へのステップを、安心できる環境の中で共に考えていきます。		
営業時間	9時 0分から	18時 0分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	馬の世話（エサやり、ボロ拾い、水くみなど）や、調理、掃除、薪割り、畑ごとなどの暮らしの営みに主体的に関わることで、生活リズムや身のまわりのことへの関心を育てます。「何をすればいい？」ではなく、「自分からやってみる」関わりが生まれるよう、子どもに合わせた声かけや環境づくりを行っています。自分のペースで参加できる作業を通じて、役割意識と達成感を日々積み重ねます。	
	運動・感覚	馬の手入れや調馬索、引き馬、乗馬体験、森歩きや川遊びなど、自然と全身を使う活動の中で、感覚刺激への気づきや身体への安心感を育てます。特に過敏さ・不器用さ・落ち着きのなさが見られる子には、安心できる空間とペースで活動できるよう配慮し、感覚統合の視点を取り入れた支援を実践しています。体を使うことが心の安定にもつながり、二次的な困りごとの予防・緩和にも寄与します。	
	認知・行動	馬との関わりは、思い通りにいかない経験の連続です。「伝えたいつもりが伝わらない」「やっても動かない」といった経験を通じて、自分の行動を振り返り、調整する力を育みます。また、火起こしや馬具の修理、自然体験活動などを通して、計画・遂行・振り返りといった実行機能を無理なく使う機会を提供しています。	
	言語コミュニケーション	馬との非言語的な関わり（触れる、見る、距離をとる、呼びかけるなど）を通して、「伝わる」「伝えたい」という気持ちを育て、言語的な表現へとつなげていきます。また、子どもたちの会話や表現が自然と生まれるよう、ラジオ企画やゲーム、小さな集まりなども行い、ことばと気持ちの一致感を大切にしています。安心できる関係性のなかで、「ことばが出てこない」「言えなかった」という体験も受け止めることを重視しています。	
	人間関係社会性	馬を中心にした空間では、年齢・性別・障がいの有無を越えて、横並びで活動できる場が生まれます。力ではなく、気持ちのやりとりや相手の立場を思いやることが重視されるため、「他人と比べられる」ことのない関係性の中で、社会性や協調性を自然に育てていくことができます。また、「誰かと一緒にやる」ことが苦手な子どもも、共通の目的（馬のために草を集めるなど）を持つことで、他者と関わる第一歩が踏み出しやすくなります。	
家族支援	文章や音声、写真などを使って、子どもの活動や日々の変化をわかりやすく保護者に伝えています。「その日、何があったか」だけでなく、「どんな気持ちで育っていたか」「どんな行動の背景があったか」を共有することで、ご家庭での理解や支援にもつなげています。また、保護者の悩みに寄り添いながら、将来に向けた見通しづくりや学校との連携サポートも行っていきます。	移行支援	中学・高校・卒業後に向けたライフステージの変化を見据え、本人・保護者・関係機関と連携しながら支援を行います。学校生活や将来の進路に不安を抱える子どもたちに対し、今ある力や興味を丁寧に汲み取り、生活・就労・地域とのつながりに向けたステップを一緒に考えていきます。
地域支援・地域連携	地域での馬搬や農作業、古民家の手入れ、イベント参加などを通じて、子どもたちが「役立つ存在」として地域と関わる経験を重ねます。これにより、社会との接点や将来像を自然にイメージできるようになります。また、地域住民やボランティアとの関係も大切に、多世代・多様な人々と共に過ごすことで、広い意味での社会性を育てています。	職員の質の向上	日々の実践を振り返るミーティングを重ね、感覚統合、非構成的アプローチ、馬介在活動、野外教育などの視点をもとに、支援の質を高めています。また、外部研修や勉強会、専門家との連携を通じて、スタッフ一人ひとりの学びと実践の循環を大切にしています。
主な行事等	決まった年間行事は設定せず、季節や天候、そのときの子どもたちの関心や状態に合わせて柔軟に活動を展開しています。たとえば、雪遊び・焚火・田植え・収穫、料理などを、「自分たちで考えて実現する」体験として取り組み、主体性と創造性を育みます。		